



一志町片野の中世城館

一志町片野の雲出川右岸にある標高約12mの河岸段丘上に位置する片野遺跡の範囲は、約30万㎡に及び、過去に行われた道路改良などに伴う発掘調査では、弥生時代を中心とする遺構・遺物が多数検出されおり、津市を代表する遺跡の一つに挙げられます。

昭和56(1981)年に刊行された「一志町史」によると、遺跡の中央部に位置する神明神社の周囲には堀状の遺構の存在が確認されており、以前よりここが中世城館である可能性が指摘されていました。

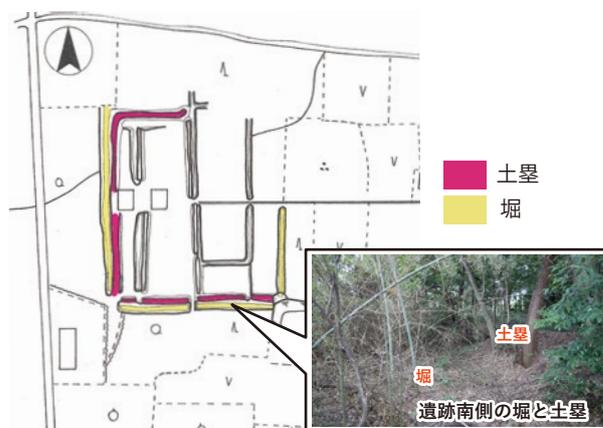
中世城館とは、平安時代末期から戦国時代の約400年間に築造された城跡です。石垣や水をたたえた深い堀が使用されることは少なく、自然の地形を巧みに利用し、土塁や堀、郭などが複雑に組み合わされています。知略をめぐらせることで、防御や攻撃に備えたものが多くみられ、この中世城館もそのようなたたずまいを有しています。

平成10年12月、研究者グループによる本格的な測量調査が行われ、城館の位置などが判明しました。それによると、東西約75m、南北約80mの方形の城館で、西側と南側、北側に外郭の土塁と堀が残っています。南側の外郭の土塁は

3カ所で途切れており、ここに入口などの施設が存在していた可能性があります。北側の外郭の土塁は、かなり削り取られていますが、残存している部分で入口などの施設が存在する可能性もあります。東側の外郭施設は、半分の堀しか残っていません。

この城館は地元の有力者の城館と推測されますが、今のところ発掘調査も行われず文献もないため、詳しいことは分かっていません。

津市内には、現在までに110カ所以上の中世城館が確認されています。春の1日を往時に思いをはせて片野遺跡周辺を散策してみたいはいかがでしょうか。



一志町片野の城館の測量図
(伊勢中世城館研究会「伊勢の中世城館」第4号に加筆)



神明神社遠景(奥の森が中世城館)

